

平成26年活動状況

『新空港線「蒲蒲線」整備案説明資料』

- 1. 大田区の取り組み 2ページ
- 2. 交通政策審議会の審議スケジュール 3ページ
- 3. 今後の羽田空港と
新空港線沿線まちづくりとの連携 4ページ
- 4. 大田区勉強会案 5ページ
- 5. 新大田区案 6ページ
- 6. 新大田区案の段階整備案 7～8ページ
- 7. おわりに..... 9ページ

平成27年1月19日

大田区



【事業実施に向けた検討経過】

- 平成17年度～現在・区民協議会の開催（これまでに6回開催）
（区民、区議会議員等により構成）
- 平成25年度・7区長（大田区、品川区、目黒区、港区、新宿区、豊島区、渋谷区）
が都へ早期着手の要望書提出（平成26年2月）
- 平成26年度・国土交通省の諮問機関である交通政策審議会においてヒアリングを受ける（平成26年6月）
- ・9区長（大田区、港区、新宿区、品川区、目黒区、世田谷区、渋谷区、豊島区、板橋区）が、国、都の早期着手の要望書提出予定（平成27年2月予定）

【重要な周辺動向】

- ◆交通政策審議会における次期答申の検討（平成26年度～27年度）
- ◆国家戦略特区の指定（大田区）
- ◆羽田空港の年間発着容量の拡大（国検討）
（新設滑走路の整備、飛行ルートの検討）
- ◆外客受入戦略拠点指定（蒲田）
- ◆2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定
- ◆地域住民の期待の高まり

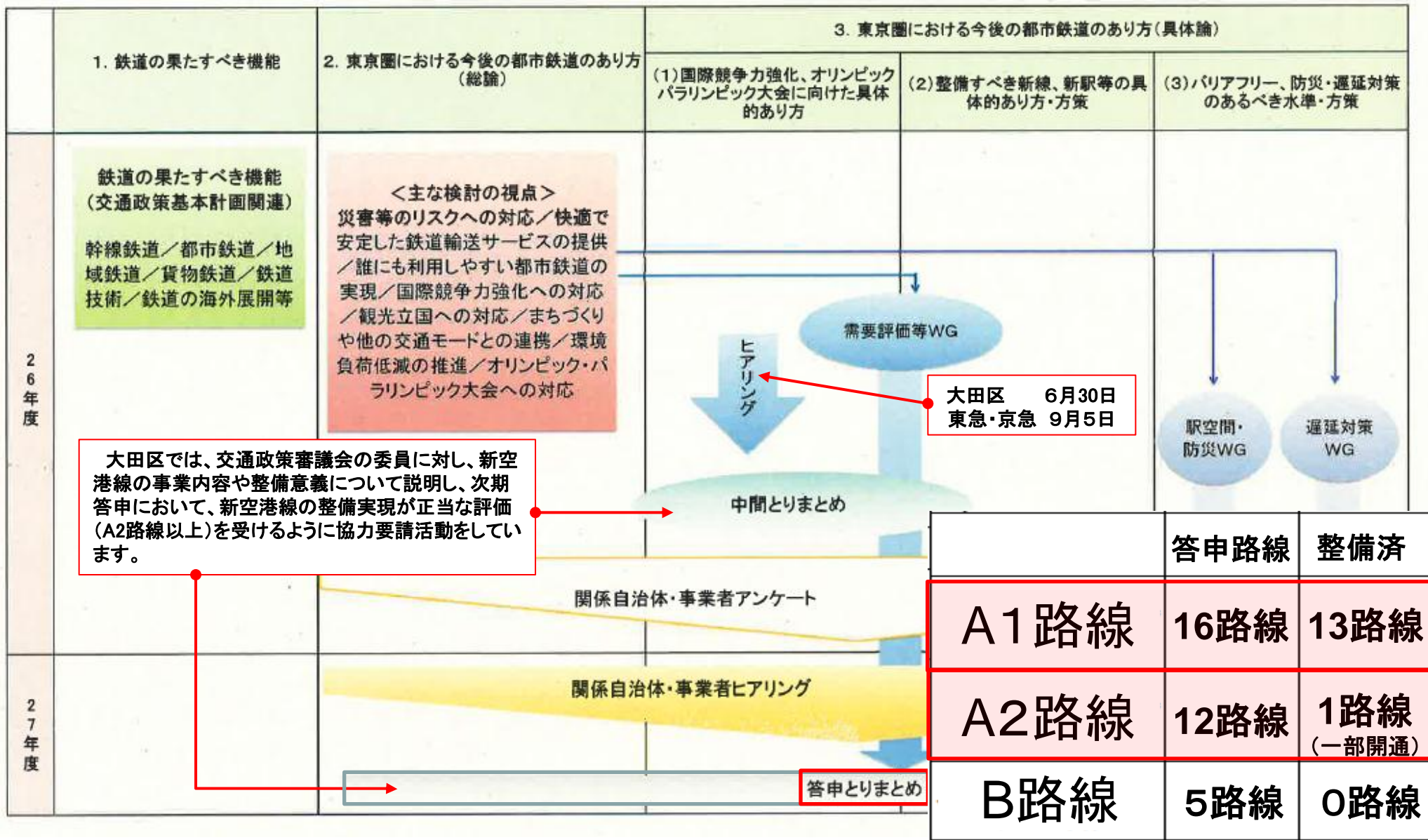
【新空港線の整備価値】

- ◆区内東西交通の分断の解消
- ◆羽田空港と都心間のアクセス強化
- ◆国際都市東京の
広域交通ネットワークの補強
- ◆沿線まちづくりの推進
- ◆防災機能を兼備
（非常時等の代替ルート）

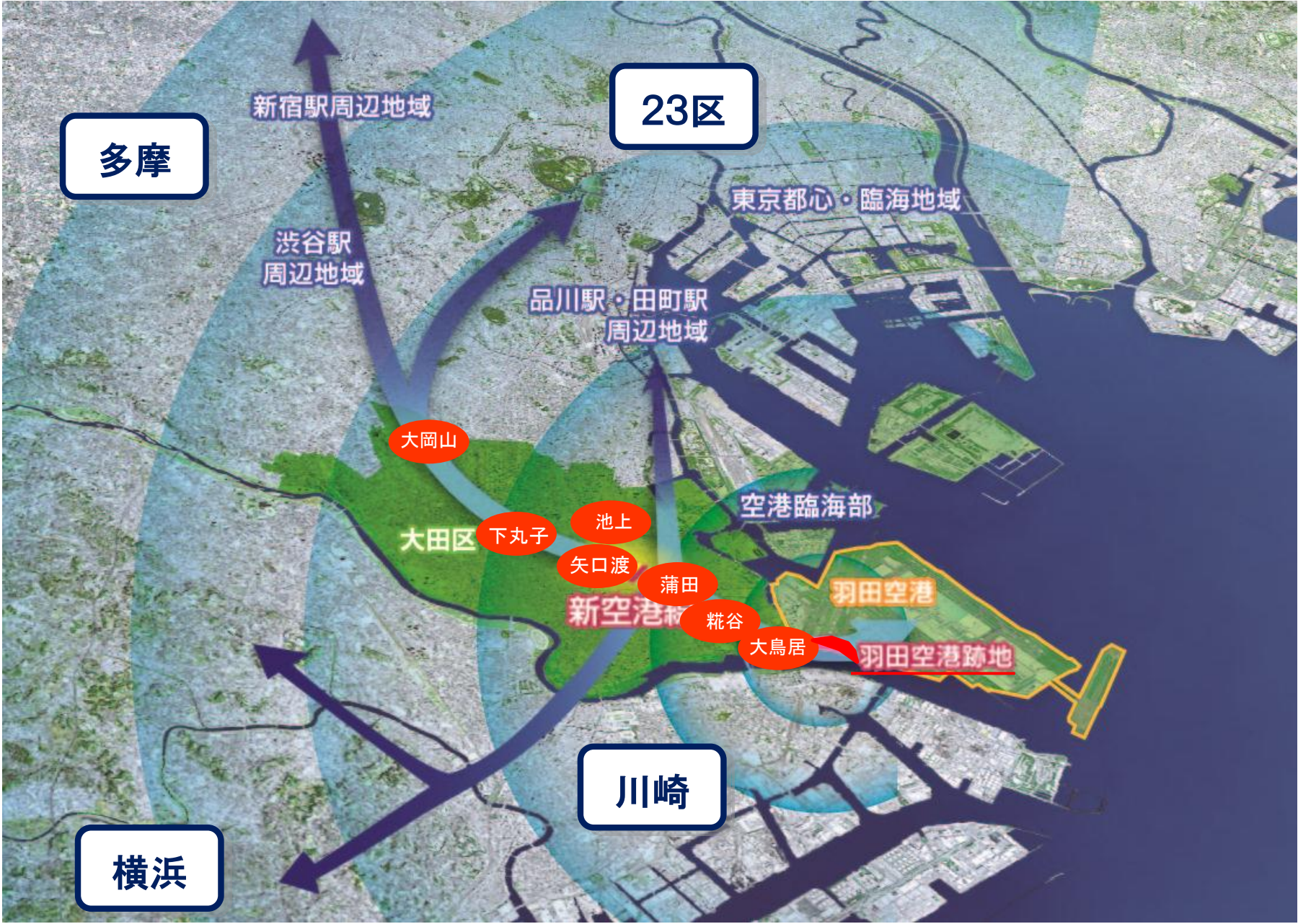
【目標】

首都東京を世界一の都市に

2. 交通政策審議会の審議スケジュール

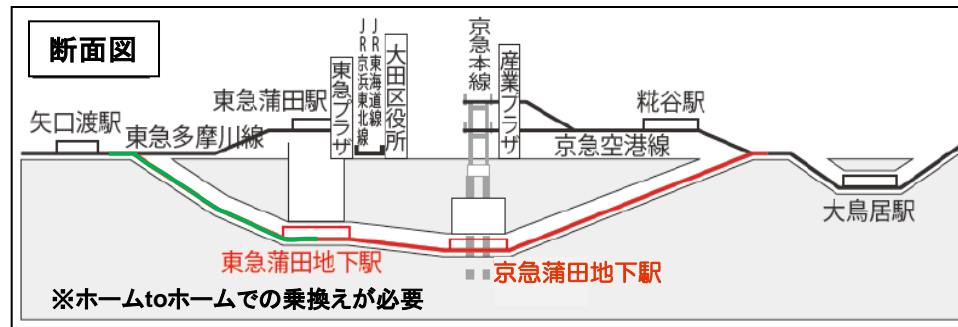
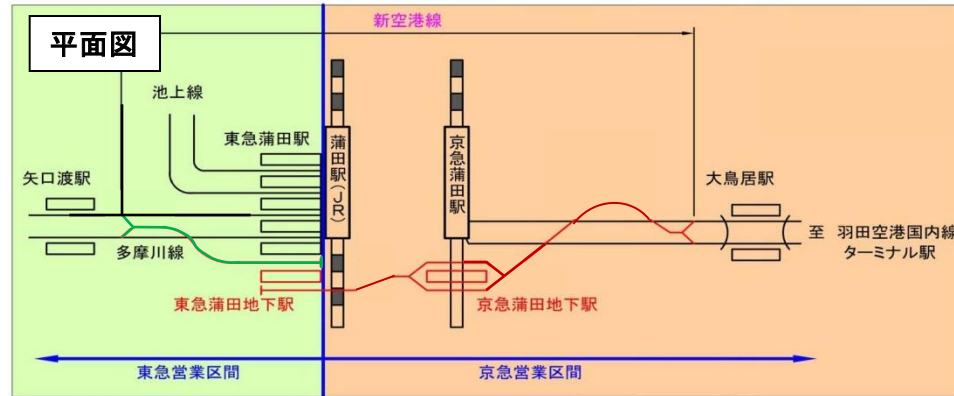


3. 今後の羽田空港と新空港線沿線まちづくりとの連携



4. 大田区勉強会案【平成24年度調査報告書より】

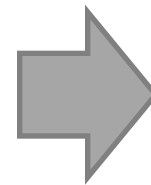
☆当初の大田区勉強会案は、単線で東急多摩川線と京急空港線を結ぶ案であり、京急空港線から東急蒲田地下駅に乗り入れることによって、羽田空港から大田区を含む東京西部へのアクセスを向上させ、利便性を高める案である。



※工期=11年

◆問題点

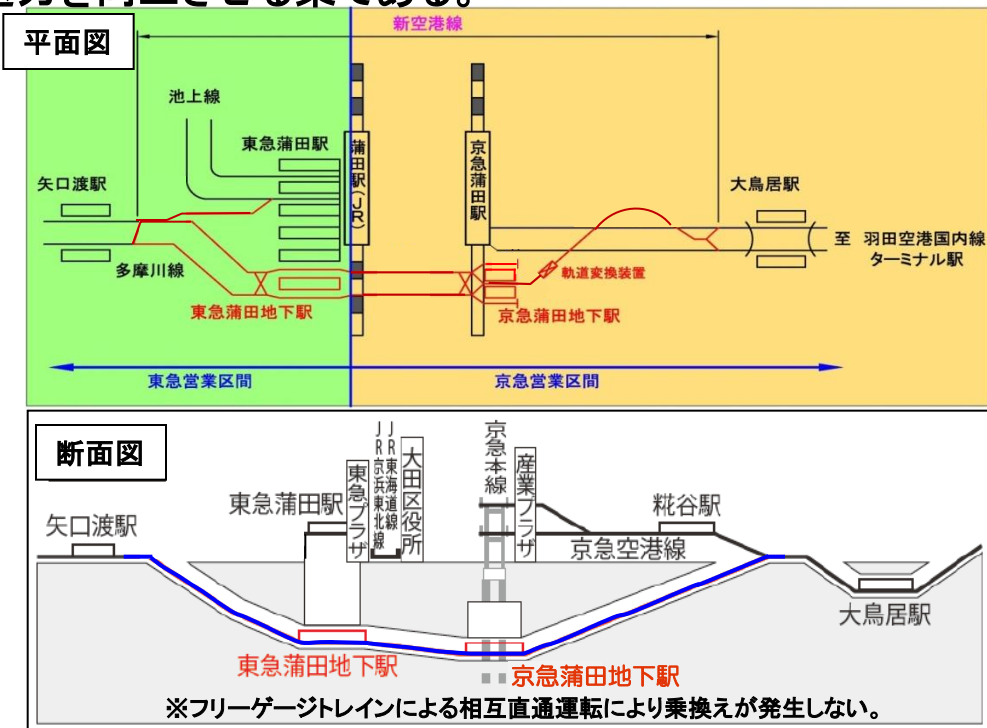
- ・東急多摩川線蒲田駅に地上駅、地下駅があり、利用者にとって移動が複雑である。
- ・用地買収等に時間を要するため、早期の整備完了が困難



課題を解決するための
新たな案を検討

5. 新大田区案【大田区勉強会をベースに、より利用者利便性を向上】

☆新大田区案は、京急蒲田駅まで複線化し、その先をフリーゲージトレインで相互直通運転をすることにより、利用者の利便性と輸送力を向上させる案である。



※大田区独自の案であり、関係者合意が取れたものではありません。

◆新大田区案のメリット

- ・空港アクセスの改善＝羽田空港から乗り換えなしで都心及び副都心へ(渋谷、新宿、池袋)
- ・東急蒲田駅～京急蒲田駅間の複線化により事業性(輸送力)が向上
- ・東急多摩川線、新空港線の東急蒲田駅を地下駅に集約することにより、煩雑化を解消
- ・東急線の地下化により、用地買収箇所を削減

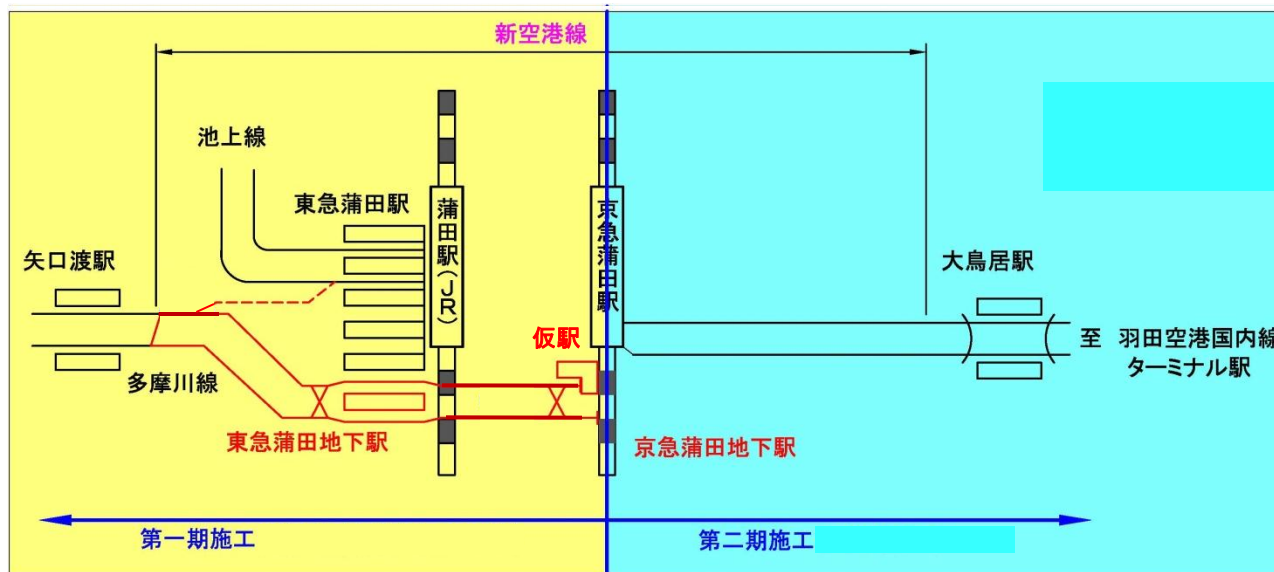
◆新大田区案の課題

- ・フリーゲージトレインは走行実験中であり、技術開発に課題が残る。

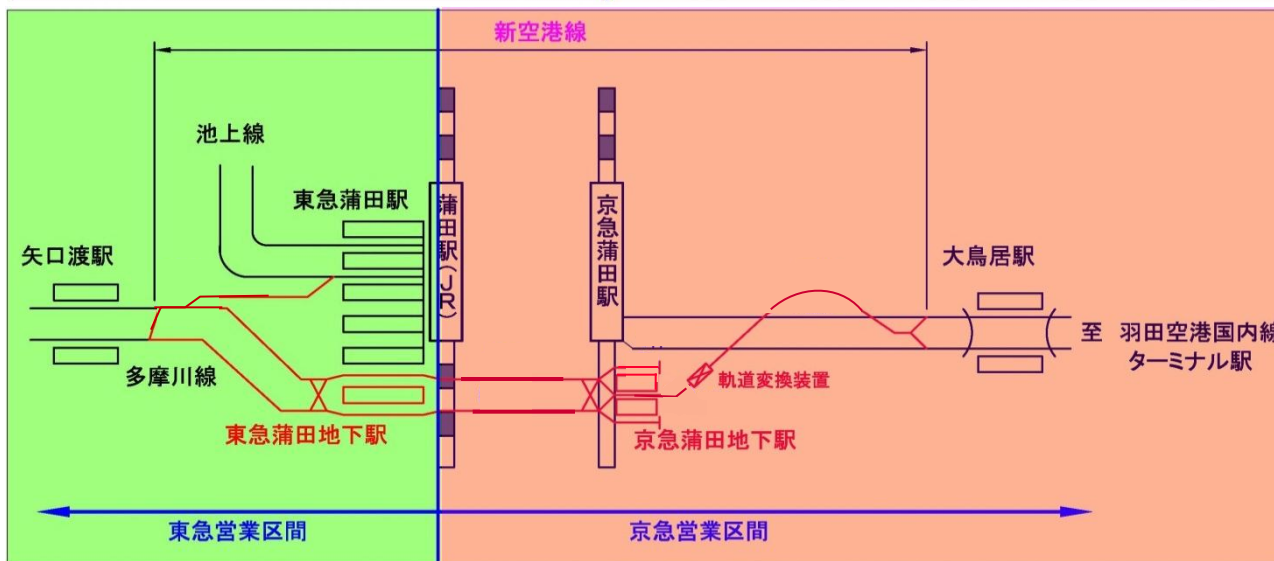
6. 新大田区案の段階整備案(1) 【乗換なしの相互直通運転を可能とすることを最終形とした技術面・工期面を考慮した段階整備案】

☆この案は、区内の東西交通の分断を早期に解決するために、第一段階として矢口渡から京急蒲田地下駅間を整備し、その後京急蒲田地下駅から大鳥居間を整備するものである。

◆暫定先行開業時



◆完成時(最終形)



6. 新大田区案の段階整備案(2) 【整備工程】

☆段階整備案(リスク回避案)

暫定開業

全面開業

	第一期整備						第二期整備					
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目
手続き	都市鉄道等利便法手続き 都市計画手続き など											
	環境アセス関連											
工事		測量・設計										
			用地取得									
			第一期 本工事				第一期 残工事					
							第二期 本工事				第二期 残工事	
車両 (フリーゲージ)	開発、設計、試験											
		設計・製作										
			実車試験									
									量産車両の 製作、試験			

※大田区独自の案であり、関係者合意が取れたものではありません。



○新空港線の早期整備実現に向けて

新空港線の整備実現に関しましては、大田区の素案や新しい提案を含め、技術面や財政面などの諸条件の詳細な検討が必要であり、現在、国をはじめとする関係機関との様々な調整を継続して行っているところであります。

区としては、関係機関のご理解、ご協力を得ながら、こうした諸条件を1つ1つクリアしていきます。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に間に合うか否かに関わらず、早期着手に向けて取り組んで参ります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力の程をどうぞよろしくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました。